

ぼくが市長になったら

下田市立稲梓小学校 五年 土屋 太馳

「下田ってどんなところなの？」

と聞かれたら、何と答えるでしょうか。ぼくだったら、

「開国の街なんだよ！」

「金目鯛などのおいしい水産物がたくさんあるんだよ！」

「日本でも有数のきれいな海があるよ！」

と、相手の耳にタコができるほど話すことができます。下田は、江戸時代にアメリカからペリーが来たことで鎖国をやめて開国した街です。金目鯛のしゅうかく量が全国で一位であり、ぼくが特に好きなペリーロードにはナマコかべや黒船をイメージしたお店や大砲が置いてあり、おしゃれな街並みです。下田に住んでいる人ならば、下田のじまんをたくさん知っていると思います。しかし、県外の人には、あまり知られていないみたいです。下田市のホームページに載っていた「観光レクリエーション客数」を見ると、平成二十五年から平成三十一年にかけてじょじょに減っていました。一方で、宿泊客数は、増加傾向にありました。この結果を見てぼくは、

（泊まる人は多いのに、レクリエーションを楽しむ人が少ないのはなぜだろう？）

と思いました。せっかく下田に来てくれたのに、下田のよさが伝わらないまま帰ってしまうのは、もったいないです。

そこで、ぼくは「もし、ぼくが市長だったら」という視点で下田をアピールする方法を考えてみました。ぼくは、下田のことを全国に知ってもらうことが大切だと思いました。最近では、SNSで様々な情報を発信することができるようになり、世界中の人とつながることができます。それを利用して、下田市をPRするCMを作りたいです。アイドルや俳優に頼むのではなく、地元の人たちで協力して作ることで、下田のよさをアピールできると思います。下田に来た人が、

「あ、ここCMで見たな。行ってみよう！」

と思ってくれば、下田のよさに気付くチャンスが生まれます。

初めは、下田に新しいお店や施設を増やしたらいいかもしれないと考えました。でも、新しいものを増やすと、今あるよさが無くなってしまふかもしれません。ぼくは、総合の授業で下田の干物屋さんに行きました。話を聞くと、昔から干物を作っている歴史あるお店だということが分かりました。今ある下田のありのままの姿を好きになってもらうためには、そういうお店や施設を守っていくことも大切だと思いました。

でも、これはぼくが頭の中で考えていることで全てがスムーズにいくわけではありません。お店を営んでいる人の思いや住んでいる人の思いにも応えなければいけません。考えれば考えるほど市長さんや市の役員さんは、大変な仕事をしているのだなと思いました。

ぼくは、まだ小学生で大きなことはできないけれど、まずは身近な人に下田のよさを伝え

ていきたいと思います。